

学校 教育 目標	『豊かで調和のとれた子の育成』 ～たくましく生きる人 なかよく生きる人～ ○多面的・多角的な見方や考え方で自ら問題を発見し、それを主体的に追究していける子を育てます。(知) ○田畑や自然・人など本物に触れる体験を通して、豊かな感性や相手の立場や気持ちを思いやって行動できる優しさを育みます。(徳) ○心と体をすこやかに育もうとする子を育てます。(体) ○人と豊かにかかわりながら、自分の役割と責任を自覚し、自ら考え行動し続ける子を育てます。(公) ○多様な価値観を認め合い、人とのかかわりを大切にする子を育てます。(開)			
	学校 概要	創立 146 周年 児童生徒数: 535 人	学校長 酒井 浩明 主な関係校: あかね台中学校	副校長 津守 逸実 2 学期制

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	あかね台中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分づくりに関する力 問題発見・解決能力 持続可能な社会の創造に貢献する力	あかね台中学校 田奈小学校 奈良の丘小学校	自ら進んで学び、鍛え、共に生きる子ども ・中一ギャップを減らすために、中学校を知る機会として合唱、部活動体験、生徒会説明会を設ける。 ・小中合同授業研究会を開催し、職員の交流や情報交換を行いを図るとともに、相互理解を図る。 ・まち憩や地区憩で情報交換を行い、地域と連携を図りながら子どもを育てる。

中期 取組 目標	○子ども一人一人を大切にしながら、まちと保護者とともに歩む学校にします。 ・一人一人が自己有用感を持ち、楽しく学校生活を送れるようにします。 ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを進め、思考力・表現力を育てます。 ・まちの自然、人、ものと豊かにかかわり、まちを愛する心を育てます。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①書く活動やグループ討議などを取り入れ、子どもの考えを引き出す授業に取り組む。 ②子どもが地域の材(人・自然・施設)とかかわり、問題を持ち追究し、考えを発信する学習を展開する。 ③全教員で算数の指導方法を研究し、子どもの思考力・判断力の育成に取り組む。 ④4年生で算数の少人数指導を行う。 ⑤家庭と連携し家庭学習の習慣化し、基礎基本の定着を図る。
担当 A研B研究部 重点研	
特別支援教育	①交流教育委員会で児童の状況や交流の取組方針、方法を共有する。 ②ユニバーサルデザインやアンガーマネジメントを研修を行い、授業実践や児童指導に生かす。 ③特別支援コーディネーターが中心となり、迅速に校内委員会を開催し、取り出し指導や通級への入級などに対応する。
担当 総務特別支援委	
地域連携	①水田・菜園の活用やトランペット鼓笛隊、その他の学習において地域・保護者の協力や教育力を積極的に活用する。 ②総合的な学習の実践を足あとカリキュラムとして整理し、よい取組を職員間で共有する。 ③校歌の歌詞や保護者のニーズでもある、国際性を育てる一つの取組みとして6年生が英語村に取り組む。 ④子ども達が、まちの人やものに対して愛着心を持つようになる一つの方法として、「みのたな博物館」を学習材として積極的に活用する。
担当 総務部地域連携	
豊かな心	①人とのかかわり方が身に付くよう、学級や縦割り班などで積極的に支援を行う。 ②体験学習、水田、畑を活用した学習を継続し、自然や自他を大切にする態度を育てる。 ③保育園との交流を推進し、年下の子どもとの関わる経験を確保する。 ④道徳の授業を年1回保護者に公開し、道徳の大切さへの保護者理解を図る。
担当 研究部 道徳・特活 幼保小推進	
児童生徒指導	①職員でスタンダードを共通理解し指導に当たる。スタンダードを毎年見直し、保護者に紹介し協力を得る。 ②自主性が育つように、子どもの発想を取り入れたあいさつ運動に取り組む。 ③児童指導上の課題は、迅速に主任・専任・管理職に相談し、組織で対応していく。
担当 指導部児童指導委	
いじめへの対応	①子どもと十分にかかわり実態を把握、年2回の子どもへのアンケート、年2回のYPアセスメント、田奈小独自アンケートにより危機の未然防止に確実に取り組む。 ②いじめ防止研修を行い、自分の指導を振り返り、日々の指導を改善するきっかけとする。 ③子ども一人ひとりの状況を全職員で情報共有し、チームによる支援を進める。 ④いじめ防止対策定例会は月一回、いじめ防止対策委員会は、必要に応じ速やかに開催する。 ⑤いじめ防止基本方針は、絶えず見直し取組を改善する。
担当 指導部いじめ防止委	
健やかな体	①各学級が、大縄跳びの練習に継続的に取り組む。 ②全校で縄跳び検定、がんばり教室、記録会に取り組む。 ③3年生は外部教師の協力で一輪車教室に取り組み、4年生は運動会で一輪車運動を取り入れた演技を行う。
担当 研究部体育	
人材育成・組織運営 (働き方改革)	①十分な面談を通して、適切な自己目標を設定し、常にその観点から振り返り自己研鑽に努める。 ②五年以下の職員でメンターチームを組織し、キャリアステージⅡの教職員による相談会を月一回行う。 ③職員スタンダード(仮)を作成、その実践を通して、資質(社会性・人間性)・能力の向上に努める。 ④打合せは週1回とし、グループウェアの活用により校務の効率化を図る。
担当 教務部・メンターチーム	